

2024年9月22日

「小犬の信仰」

マタイによる福音書 15:21-28

早川 真牧師

当時ユダヤ人は異邦人を犬と呼びさげすんでいました。そこには自分たちこそが神の子どもであるという自負がありました。しかしここでイエスは、カナンの女性に「小犬」と言われました。ユダヤ人が犬と呼ぶ場合、それは野良犬を指します。しかしイエスの言われた小犬は家庭でペットとして飼われている犬をさす言葉だそうです。この「小犬」という言葉には、異邦人に対するイエスの愛が表れています。

しかしここでイエスは、神の救いには、はっきりと優先順位があることを示しておられます。それは、まず、ユダヤ人の必要を満たすことでした。イエスはこのカナンの女性に対して、はっきりと、あなたの優先順位は後なのだと言われました。しかしこの女性はまだ諦めませんでした。彼女は、おこぼれで良いからくださいと、自分を低くして、イエスに再び憐れみを求めました。ここに、決して諦めない信仰というものを見ます。

今朝の箇所はこの時は、異邦人にはまだ救いが与えられていない時でした。しかし今は違います。イエス・キリストは、御自分を信じる者にどんな人にも神の子どもとなる資格を与えました。人種も性別も過去に犯した罪や過ちも一切関係なく、ただイエス・キリストを信じるなら、父なる神の子として、食卓の上でいつも豊かにパンを与えると約束してくださっています。

私たちは今、カナンの女性よりもはるかに大きな恵みを受けています。この恵みを無駄にすることなく、互いに祈り合い、大胆に神に求めていく神の子供の信仰へと導かれてまいりたいと思います。